

飛鳥・藤原を世界遺産に

日本オリジナルの八角墳

乙巳の変(645年)にはじまる一連の政治改革「大化の改新」の薄葬令によって豪族の造る古墳の規模が規制されました。さらに天皇を頂点とする中央集権体制の確立に向け、最上位の墳墓として新たに生み出されたのが八角墳です。八角墳という形態は中国の宇宙観に基づき、日本独自に創出されました。「飛鳥・藤原」には牽牛子塚古墳、天武・持統天皇陵古墳、中尾山古墳、中尾山古墳があります。

中尾山古墳の墳丘西側から遠くを眺めると牽牛子塚古墳が見えるよ!



▲牽牛子塚古墳 別名 あさがお塚



墳丘全景(西から)の発掘調査により八角形の墳形が明らかになりました。
 所 明日香村越
 近鉄飛鳥駅より西へ約750m
 [写真提供] 明日香村教育委員会
 ※いずれも発掘調査終了後、現在は埋め戻されています。



▲中尾山古墳 最後に造られた八角墳



墳丘と外周石敷(東から)の発掘調査により八角形の墳形と特異な墳丘構造が明らかになりました。
 所 明日香村平田
 近鉄飛鳥駅より東へ約800m



世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会 公式サイト

奈良県世界遺産室 ☎0742-27-2054

手話のはじまりについて



日本で手話はいつ誕生したのですか?

明治11年に日本で初めてろう教育を行った、京都盲啞院ができました。そこへ聞こえない子どもたちが集まり、身振りの表現が手話の誕生につながったとされています。



明治時代からろう教育が全国に広まり、手話も広まっていったのですね。

しかし、その後の世界ろう教育者会議で、ろう教育は*1読唇と*2口話法を用いることが決議され、日本でも「口話法」が普及しました。昭和8年には、ろう学校で手話の使用が事実上禁止されました。



そのような経緯があったのですね。

そんな中でもろう者の間では「手話」は使われ続け、大切に受け継がれてきました。また、平成18年に国連総会で採択された障害者権利条約に「手話は言語である」と明記され、国内の自治体でも手話言語条例の制定が広がり、手話に対する認識は変わってきました。



手話は大切な言語 vol.13

教育・教える

会議(する)



横に向けた右手人差し指を前方斜め下へ2回振る



両手親指を立ててつけ合わせたまま、水平に円を描く

奈良県では平成29年に手話言語条例を制定。詳しくはこちら

動画を見てやってみよう



*1:「読唇」=話し手の唇や顔の動きから発話内容を理解する技術
 *2:「口話法」=唇の動きを見て相手の言葉を理解し、読唇や発声でコミュニケーションをとる方法